

関西国際空港の開港を
来年に控え、急増する外
国人のための医療に関す
る民間の電話相談窓口
「AMDA国際医療情報
センター大阪」が十一月
大阪市内に開設される。
準備を進めているのは国
際的な医療保健活動に従
事する若手医師らによる
AMDA（アジア医師連
絡協議会）。設立準備委
員会の代表を務める近畿
大学医学部助手の精神科
医、宮地尚子さん（三三）は
「できるだけ多くの医師、
ボランティアの協力を」
と呼びかけている。

「よく海外で病気になっ
た時ほど心細いことはな
い、と言いますね。日本に
来ている外国人も同じだと
思っています」と宮地さん。

AMDA医療情報センタ
ーは一九九一年四月、まず
東京に開設された。外国語
で受診できる医療機関の紹
介をはじめ、医療に関する
相談に八か国語で対応して
おり、今年から都の委託事



外国人の医療電話相談
について話す宮地さん

大阪にも 12月開設

業になった。

これまでに受けた相談は

八十数か国の人から計三千
三百件。うち二割近くが関
西方面からだった。「でも
電話代が大変だし、東京で
は関西の情報も十分ではな
い」。新空港の開港で外国
人の急増が予想され、大阪
でのセンター計画が持ち上
がった。

医療人類学、比較文化精
神医学を専攻する宮地さん
は一九八九年から昨年まで
ハーバード大学に留学。ポ
ランティアでボストン市在
住の日本人の電話相談をし
ていた。「言葉の壁や文化の違い
からくるストレスを抱え
て、孤立している人が多い
ことを痛感しました。でも
まだアメリカ力は他民族に対
して開かれており、日本人
も多い。日本のような閉鎖
的な社会で暮らす外国人は
どうだろうか、と思ったの
です」

留学前からAMDAの会
員でもあり、そんな自分の
経験と知識を役立てられれ
ばと代表を引き受けた。

関西新空港開港控え計画

若手医師らの準備委 協力者呼びかけ

開設に向けて、先日大阪
で問題点を話し合った。

「まず言葉の壁。医者に
かかっても十分な「ミ
ユニケーション」ができず、
治療がうまくいかない場合
も予想される。次に習慣、
文化の違い。たとえば、人
前で肌を見せることがタブ
ーの女性は、診察室で
無理に服を脱がされるとお
びえてしまいます」

大阪府でも昨年からは衛
生対策審議会で検討し、
医療情報のサービスセン
ターを作ることが決まっ
ている。

「役割分担しながら連携
していくつもりです。たと
えば、自治体のセンターに
は不法滞在者は警戒して行
かない。でも、私たちは不
法滞在かどうかは問いませ
ん」と宮地さん。

現在、協力医と共に、外
国語ができるボランティア
が払えない人に、補てん措
も募集している。連絡は同
大医学部衛生学教室（07
23・66・0221）

「結局、最大の原因は情
報不足です。制度的なこと
や精神的な問題も含めて、
安心して相談できる窓口が
必要です」